

## 「日本機械学会関西支部特別員会社 (第4区)の産業記念物調査集計表」\*

並川宏彦\*\*

表題の集計表は日本機械学会関西支部が、支部の創立60周年記念事業の一環として、関西支部域(第4区)内の機械学会特別員会社147社を対象に、産業記念物をアンケート調査した結果であって、52社(内、明治・大正期創業29社)からの回答を収録している。

日本機械学会は、1897(明治30)年6月に創立され、本年2月末の会員数は39,308内特別員数834である。本会には、技術史や産業記念物を研究する委員会はない。だが、その関西支部(会員数7,060)にある機械技術フィロソフィ懇話会(代表者、石谷清幹大阪大学名誉教授、会員数42、内会社関係者19)はこれらの問題に関心をもち、懇談テーマの5つの柱の第1に「機械工学・工業発展の歴史とその背景および展望」を置き、1979年5月以降にこの関係で20余の話題提供がなされている。その大部分はすでに、日本機械学会編『技術のころ——機械技術史をさぐる』(1984年12月、丸善)によって公刊されている。

同懇談会の昨年9月の例会(隔月開催)で「産業記念物の調査研究と保存」(話題提供者並川宏彦)が取り上げられ、産業考古学の発祥地英国での動き、わが国の状況、1980年に発足した産業記念物調査研究委員会(代表者、庄谷邦幸桃山学院大学教授)の活動を中心にした近畿地域での調査の経過と結果の報告、そ

日本機械学会関西支部  
特別員会社(第4区)の産業記念物  
調査集計表



昭和60年3月19日

発行所  
日本機械学会関西支部  
創立60周年記念事業

図-1 「日本機械学会関西支部特別員会社(第4区)の産業記念物調査集計表」表紙

して企業資料の紹介の後、2時間にわたる意見交換があった。この中で、「産業記念物調査」を支部創立60周年記念事業の一環として取り上げるとの石谷代表の提案が了承され、その後、記念事業実行委員会の承認もあって、急遽アンケート調査が実施された。

本年3月19日の機械学会関西支部総会(創立60周年記念式典)に報告するため、アンケートの回答は2月中頃でまとめられた。集計表には、その後寄せられた回答は含まれていない。しかし、特別員会社においては、あちこ

\* 1985年8月6日受理

\*\* 桃山学院大学

ちにある事業所へ調査を呼びかけられ、まとめて、あるいは、それぞれの事業所から回答が寄せられているところもあり、豊富な内容となっている。

アンケートの依頼書には、次のように目的が示されている。「関西支部創立60周年記念事業の一環として、本会特別員会社の産業記念物を調査し、(1)日本機械学会関西支部特別員会社『産業記念物調査報告書』を公刊し、貴社が果してきた産業界における歴史的な業績を末長く記録にとどめるとともに、(2)将来の産業技術を展望するための研究教育資産として活用し、さらに、(3)このような活動を全国的な規模まで発展させ、米国機械学会の Landmark 指定に準ずる活動の端緒としたいと存じます」と。

調査対象となる産業記念物は、会社の創立以来今日までの発展過程で重要な役割を果たしたモノとして、施設・構造物、機械設備、製品・部品のほか、模型、写真、カタログ、図面、文書、映画、その他経営者・技術者・研究者等に関する資料、遺品などを含んでいる。

アンケートの質問1では、産業記念物の保存、展示、収蔵施設の有無、その公開、非公開を問うているが、回答52社中15社に19施設があり、その内6施設が公開で、他は前もって連絡し、見学の許可が必要とされている。

質問2では、社史、製品史等の発行、および会社や製品が紹介された文献について問うているが、社史や経営者の伝記は38社が刊行しており、また、紹介された文献も多数ある。

質問3では、新製品開発、研究開発等の苦心談のできる人、産業記念物についての情報をよく知っている人、古い機械技術に関する

精通者、技術保持者をたずねているが、多数の回答が寄せられ、本人の了解が得られていない場合もあると判断されるところから、学会の資料とし、集計表には掲載されていない。

質問4は同じように製品開発、工程改善等の苦勞の記録の有無をたずねているが、各社とも社内の技術報告書の形で残されている様子が、特別なものが浮かび上らず、集計表には記載されていない。

質問5は産業記念物について問うている。集計表に記載されている記念物の名称は1,028項目に及ぶ。

明治・大正時代の設備・製品として記入されたモノに、大阪製鎖造機の鋳鋼製チェーン、川崎重工の衝撃試験機・全鋼製国産第1号電車602号車、久保田鉄工の鋳鉄管・国産第1号水冷灯油エンジン、神戸製鋼所の呉第三製鐵工場（旧呉海軍工廠精密兵器工場で建設省の保存指定建築物）・100T 起重機、シャープの徳尾錠（スライド式バンドバックル）・シャープペンシル・鉍石受信機、島津製作所の医療用レントゲン装置・各種ガスX線管・我国最初の木製足踏旋盤・英国製パイプオルガン・米国製エジソン蠟管式蓄音機・日本最古の顕微鏡・三脚ケース付暗箱式写真機・排気機・島津感応起電機・島津式ブンゼンバーナ・ジーエス蓄電池・ストロボスコープなど199項目、ダイハツディーゼルのガス機関、日本ピラー工業のピラー No.1 パッキン・手廻しプレス、阪急電車の1号車・10号車・半鋼製301号車・京都市電5号車・能勢電2号車・多数の古レール、日立造船の洋風木造建物（広島工場内来賓宿舎・舞鶴工場内記念館〈舞鶴館〉）・天井走行クレーン・横フライス盤・練習船雲鷹丸（東京水産大展示）、松下電工のタッチ

(1) 米国機械学会 (ASME) は1971年に History and Heritage Committee を作った。この Committee の目的は過去の機械工業の達成内容を調べ、とりわけ価値のある労作を記録することによって貴重な遺産に注意を促すことにある。ASME はこれらの賞賛に値する成果を National Historic Mechanical Engineering Landmark として確認している。

メントプラグ、三菱電機の扇風機、ヤンマーディーゼルのディーゼル博士製作 MAN 社製ディーゼル機関・変量式石油発動機・オフセット式石油発動機などが見られる。このほか模型や写真集として保存されているものは多数に上る。設計図面やカタログ類がぎっちり保存されているところもある。

また、国産第1号あるいは当社第1号の製品と記入されたモノに、久保田鉄工の第1号耕うん機、京阪電気鉄道の日本最初の連節電車・実用空気バネ台車・全溶接構造台車、神戸製鋼所の国産第1号静水圧押出プレス・超高圧標準圧力計・コーンクラッシュ・スクリュュー式圧縮機・リバーシング熱交換機・ショベル、シャープの国産第1号白黒テレビ・電子レンジ・世界最初のダブルカセットデッキ・負性抵抗発光ダイオード・フィルムキャリヤ方式 LSI、新明和工業の当時世界最高性能の大型二式飛行艇、ダイハツ工業の日本最初の三輪乗用車、日新電機の世界最初の OF 式コンデンサー、日本エアブレーキの国産第1号自動ドア用エンジン、阪急電鉄の日本最初の大型長距離高速度電車101号車、松下電工の第1号電気カミソリ・国産第1号のエポキシガラス銅面積層板、ミノルタカメラの第1号カメラニッカレット・フォーカルプレキシッターカメラミノルタ35・超小型精密カメラコーナン16オートマット・レンズシャッターカメラミノルタスーパーA・一眼レフカメラミノルタ SR-2・8ミリムービーカメラミメルタズーム8・写真用露出計ビューメータ9・TV カラーアナライザー・国産初のレバー巻上げカメラミノルタメモ・世界初の剛体蛇腹カメラミノルタベスト・1/2000秒レンズシャッターカメラミノルタV2、ヤンマーディーゼルの世界最初の小型横より水冷ディーゼル機関、などが目につく。

島津レントゲン資料館、島津創業記念資料館、そして神戸製鋼所の田宮記念館の所蔵品目録がそのまま掲載されており、参考にな

る。

質問6は近く廃棄しようとするモノはないかと問うているが、1件だけ回答がある。

以上がアンケートの回答結果のあらましである。

どのモノについても、それを保存する意義が記入者によってぎっちり書かれており、わかりやすい。

おわりに「今回の調査を通じて、多くのモノが、作られた所で、あるいは使われた所で保存されていることが明らかになった。

産業記念物は何時、何処で、誰が、どのようにして作ったか、あるいは用いたか、それが作られた経緯、使われた状況、産業や企業の発展にとっていかなる役割を演じたかなど、その周辺の事情ができるだけわかるようになっていなければならない。記念物としてのモノが何を物語るかに意味があるのであって、モノを通して、産業や技術の発展のあとがたどれなければならない。この点で、個々の記念物の価値はそのモノ自体にあるのではなく、その背景あるいは故事来歴など、いわばモノに付随するソフトな情報に大きく依存しているのである。

モノが作られ、使われた所には、この情報があり、またそれを知る人もいるので、産業記念物は作られ、使われた現地で保存するのが最も好都合である。

しかし、技術革新が進む中で、また余裕のある保存面積がない状態では、現地保存が困難な場合もある。モノが捨てられたのでは、全く意味がなくなるので、この場合には、資料館など保存施設へモノを移し、周辺事情を記録に残し、資料価値が損なわれることのないようにしなければならない。」と結んでいる。

（1985年3月発行・B5版92頁、連絡先〒550大阪府西区鞠本町1丁目8番4号、大阪科学技術センタービル内、日本機械学会関西支部、電話06-443-2073）